

コスタリカの大統領選挙(海外だより)

著者	石井 章
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	7
号	2
ページ	34-35
発行年	1990-06-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006566



持者はどちらかといえば低所得層、低学歴層が多い。両党ともそれぞれ有権者の4割を超える固定票を持っている。したがって選挙戦は残る10数%の浮動票の獲得をめぐる

て争われることになる。このところモンヘ政権(1982~86年)、アリアス政権(86~90年)と二期PLN政権が続いたため、PUSCは「三期連続して同一政党に政権を委ねれば独裁になる」と選挙民に変化の必要性を訴えた。

1989年10月1日を期して選挙運動が解禁され、集会を開いたり、旗を掲げたり、ビラを配るといった活動が始まった。二大政党のシンボル・カラーはPLNが緑と白、PUSCは赤と青で、支持者たちはこれらの二色旗を自宅の軒先に掲げたり、車に取り付けてはためかせたりして支持政党を明らかにする。PLNは「緑白党」(ベルティ・ブランコ)、PUSCは「赤青党」(ロッシ・アスル)と俗称されることもある。筆者の見たかぎりではサンホセ市内でも地方でも赤青旗が緑白旗を圧倒しているようであった。またそれぞれの街頭集会に行ってみたが、どうも野党PUSCの方が意気盛んな印象を受けた。

ラテンアメリカの人間の中では穏やかなコスタリカ人も、サッカーの国際試合と選挙のときには興奮するらしい。投票日が近づくにつれ街頭集会での気分も盛り上がり、それぞれの二色旗を掲げた自動車は警笛を盛んに鳴らす。2月4日の投票日、投票所付近では小学校高学年から高校生ぐらいまでの子供たちが動員されて、緑白や赤青のお揃いの服や帽子を身につけ、旗を振って、まるで運動会か学校の対抗試合の応援合戦のような賑やかさだ。

即日開票でその日の夜遅くには結果が判明する。

大方の予想どおりPUSCのカルデロン候補が第47代大統領に当選したが、得票率はPUSCが51.3%、PLNが47.3%と僅差であった。その他の政党はいずれも1%未満であり、そのなかでは最も多い共産党系の人民連合で0.7%にすぎない。コスタリカは七つの県(provincia)に分かれており、各県ごとに票が集計されるが、首都を含むサンホセ県に関するかぎりPUSC49.3%、PLN49.2%と互角、比較的開発の遅れた周辺の県ほどPUSCが優位という結果が出た。

ところで任期最終年にあたってアリアス前大統領の評判はすこぶるよかった。それは1989年には物価上昇率が10%未満に抑えられるなど経済が比較的良好だったことと、同大統領の国際舞台での活躍ぶりによる。中米和平交渉において指導的な役割を演じ、米州サミットを開催するなど、コスタリカの国際的地位を高めたと評価されている。

しかしアリアス氏の人気が必ずしも与党PLNの候補者への票とは結びつかなかった。PUSCの勝因として、PLN政権が二期続いたため選挙民がここで交替を望んだことがあげられる。カルデロン候補は1982年、86年の大統領選挙にも立候補したが、いずれもPLNのモンヘ候補、アリアス候補に敗れており、今回3度めの挑戦で当選を果たした。

今回の総選挙では、大統領の他に国会議員、地方議会議員、地方自治体首長の選挙も同時に行なわれた。国会は一院制で議席数57、各選挙区(県単位)ごとに比例代表制で選出される。改選前にはPLNが29議席、PUSCが25議席、その他の政党が3議席であったが、改選後は二大政党の議席数が逆転し、PUSCが29、PLNが25、その他3となった。その他の内訳は、サンホセ選挙区から人民連合とヘネラル連合党(Partido Unión Generalista)が各1、カルタゴ選挙区からカルタゴ農業連合(Unión Agrícola Cartaginés)1議席となっている。